

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成31年 4月～ 6月実績

令和元年 7月～ 9月見通し

福井県商工会連合会

1. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 162企業（回答率98.2%）
6. 調査対象期間 平成31年4～6月期実績及び令和1年7～9月期見通し
7. 調査時点 令和元年6月1日（土）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.5%	100.0%
建設業	24	14.5%	23	14.2%	95.8%
小売業	51	30.9%	49	30.2%	96.1%
サービス業	52	31.5%	52	32.1%	100.0%
合計	165	100.0%	162	100.0%	98.2%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

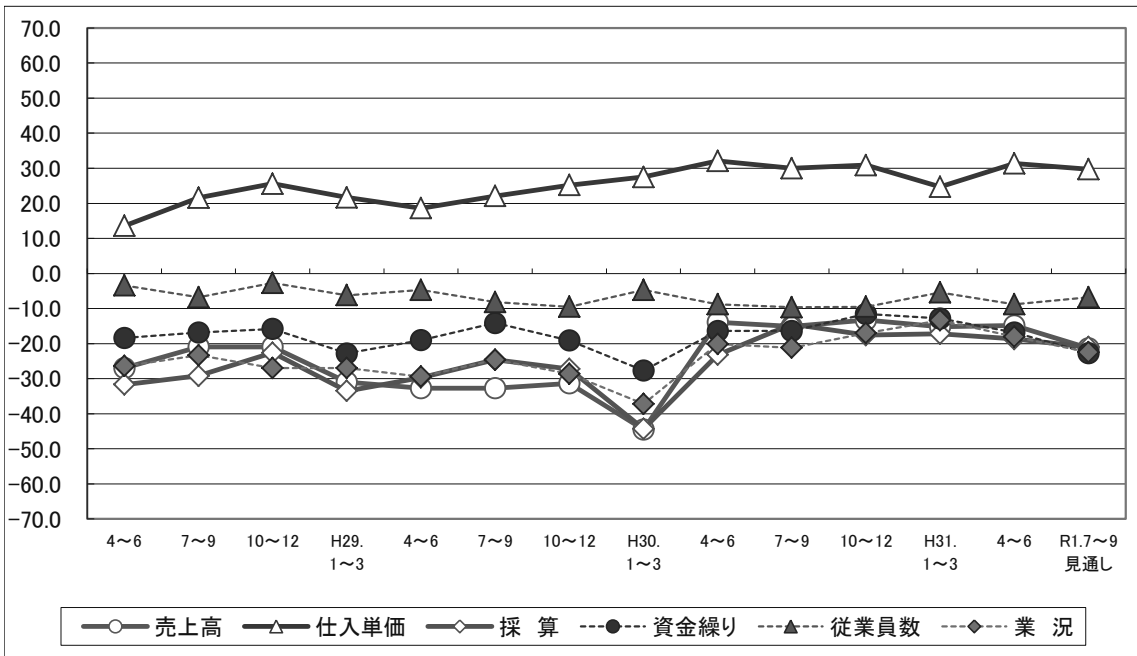
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

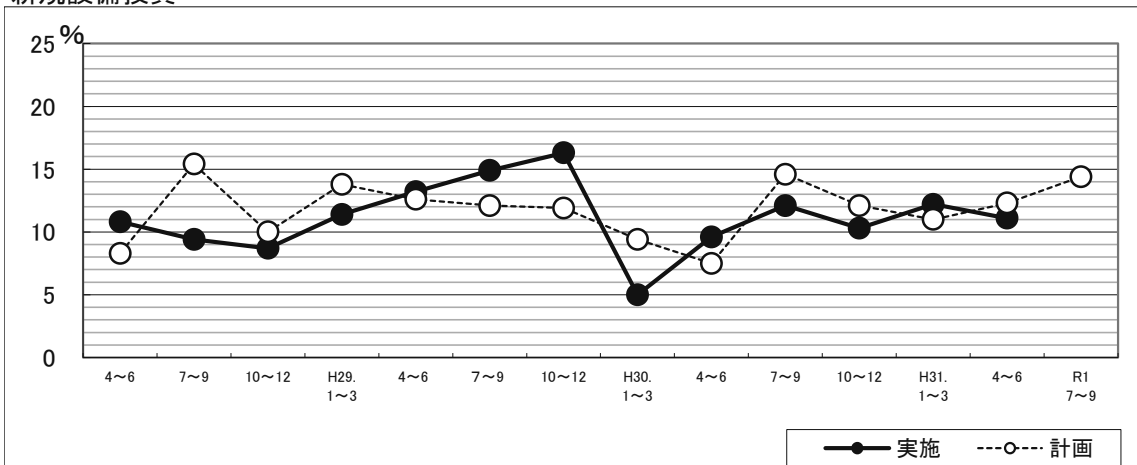
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

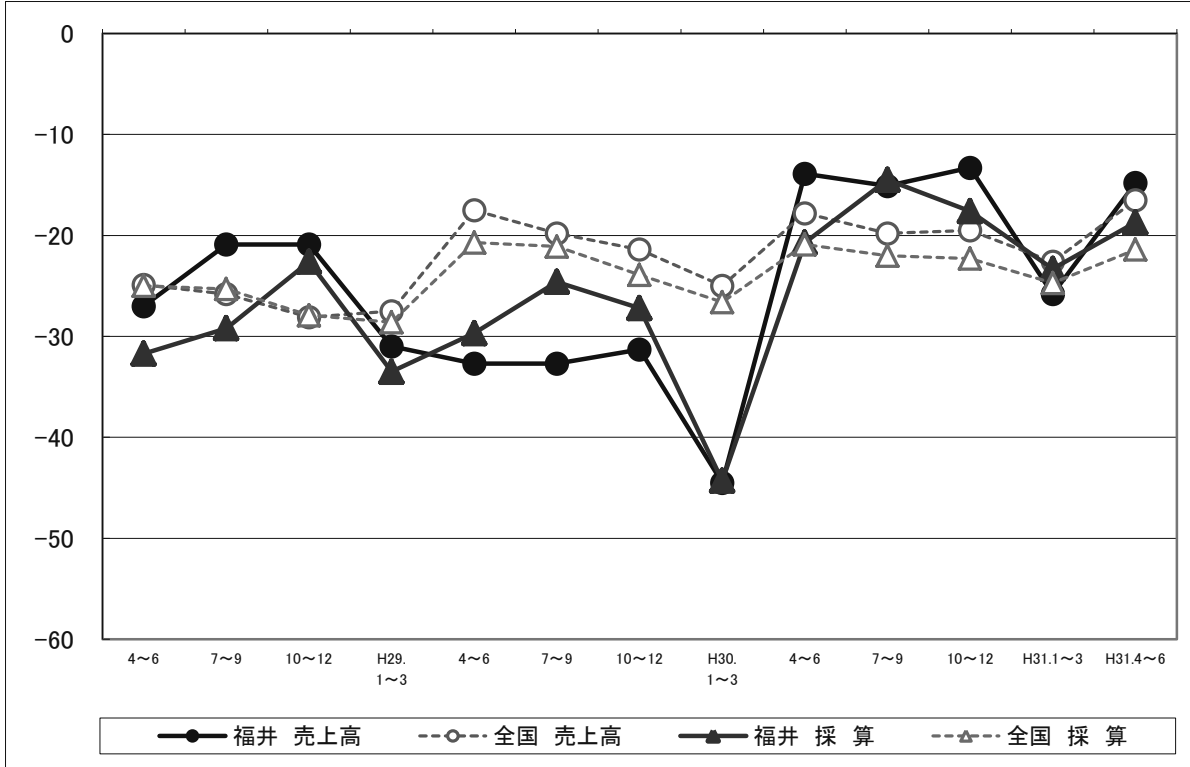
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
4~6	▲ 27.0	13.6	▲ 31.7	▲ 18.4	▲ 3.4	▲ 26.4
7~9	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
10~12	▲ 20.9	25.6	▲ 22.6	▲ 15.8	▲ 2.7	▲ 27.0
H29.1~3	▲ 31.0	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
7~9	▲ 32.7	22.1	▲ 24.6	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 24.6
10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4~6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
R1.7~9 見通し	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成31年4～令和元年6月期の福井県経済を概観すると、需要面では個人消費がドラッグストア販売で好調となっているほか、百貨店・スーパー販売が緩やかに回復していることなどから、全体としては緩やかに拡大しつつある。また、住宅投資、設備投資、公共投資なども確実に増加している。一方、生産活動は化学が拡大しているほか、生産用機械が緩やかに回復しているものの、電子部品・デバイスが足踏みの状況にあり、全体としては拡大の動きに一服感がみられる。その他、雇用情勢は着実に改善しており、人手不足感が強まっている。

こうした中、今期（H31年4月～R元年6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち1項目のみがやや改善し5項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は売上高（前期▲15.2→今期▲14.8）で、悪化した項目は仕入単価（逆指数）（前期24.7→今期31.4）、採算（前期▲17.2→今期▲18.7）、資金繰り（前期▲12.8→今期▲16.8）、従業員数（前期▲5.4→今期▲8.8）、業況（前期▲13.4→今期▲18.0）であった。今回の調査結果では、改善を示す項目が1項目にとどまり、県内中小企業の景況感は全国の動向とは裏腹に足踏み状態であることも読み取れる。また、先行き（R元年7～9月期）についても、仕入単価、従業員数を除く4項目で悪化予測となっている。

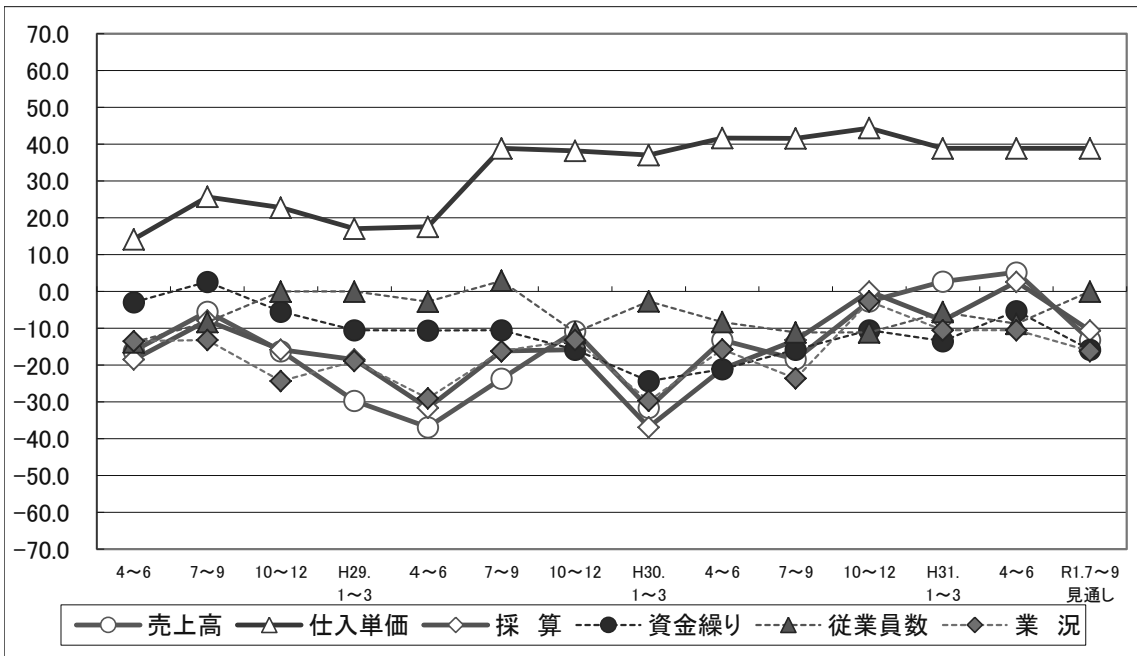
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、売上高は全国、福井県ともに悪化傾向となったが、採算は全国が改善するなか、福井県は悪化傾向を示しており、全国と福井県で景況感にやや差異が確認できた。

その他、今期の新規設備投資について、何らかの設備投資を計画している企業ウエイト12.3%に対して、実施した企業ウエイト11.1%と、実施が計画を下回っている。また先行き（R元年7～9月期）については計画が14.4%となっており、投資マインドは横這いで推移することが予測される。

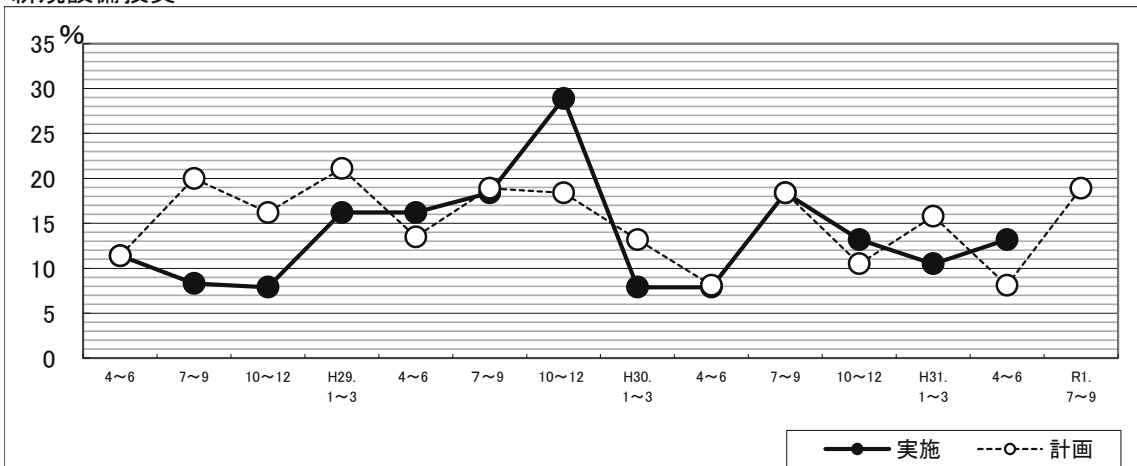
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

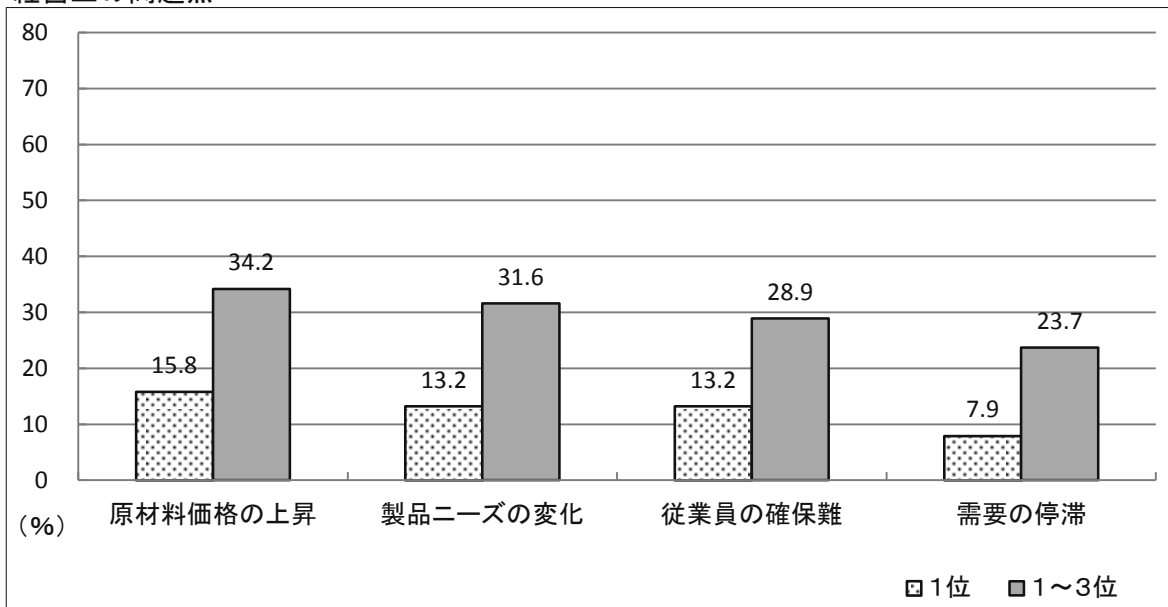
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
4~6	▲ 16.2	14.2	▲ 18.5	▲ 2.9	▲ 13.8	▲ 13.5
7~9	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
10~12	▲ 16.2	22.8	▲ 15.8	▲ 5.5	0.0	▲ 24.3
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
7~9	▲ 23.7	38.9	▲ 16.2	▲ 10.5	2.9	▲ 16.2
10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7~9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10~12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1~3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4~6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
R1.7~9 見通し	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・受注増加傾向にあるが、人手が不足している。
- ・原材料単価上昇傾向にあるが競合との兼ね合いで、製品価格を据え置くか、下げざるをえない状況である。
- ・人件費が毎年あがっており、設備投資する余力がない。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、地場産業では眼鏡枠が生産キャパに見合う受注高を確保し概ね横這いで推移、繊維も非衣料向けが堅調となっているほか、衣料向けに動きがみられることから、全体では緩やかに持ち直している。プラスチックも建築資材を中心に持ち直している。非鉄金属（アルミ圧延製品）も飲料向けに動きがみられること等から、持ち直しつつある。ただ、化学は合成樹脂等の化学製品が回復しているものの、医薬品が弱含んでいることから、全体では持ち直しのテンポが緩やかになっている。転送機械などでも拡大基調に鈍化がみられ、足踏み状態にある。これらの動きに、主力の電子部品・デバイスでのスマートフォン向け受注の伸び鈍化を加えると、全体として拡大傾向に一服感がみられる。

こうした中、今期（H31年4月～R元年6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち3項目で改善、1項目で悪化、残る2項目で横這いとなった。ちなみに、改善した項目は売上高（前期2.7→今期5.7）、採算（前期▲7.9→今期2.6）、資金繰り（前期▲13.5→今期▲5.3）、悪化した項目は従業員数（前期▲5.6→今期▲8.8）であった。その他、横這い項目は仕入単価（逆指数）（前期38.9→今期38.9）、業況（前期▲10.5→今期▲10.5）となっている。今回の調査結果からは、県内製造業の景況感がバラついていることを裏付けるものとなった。また、先行き（R元年7～9月期）については、6項目中4項目で悪化予測となっている。

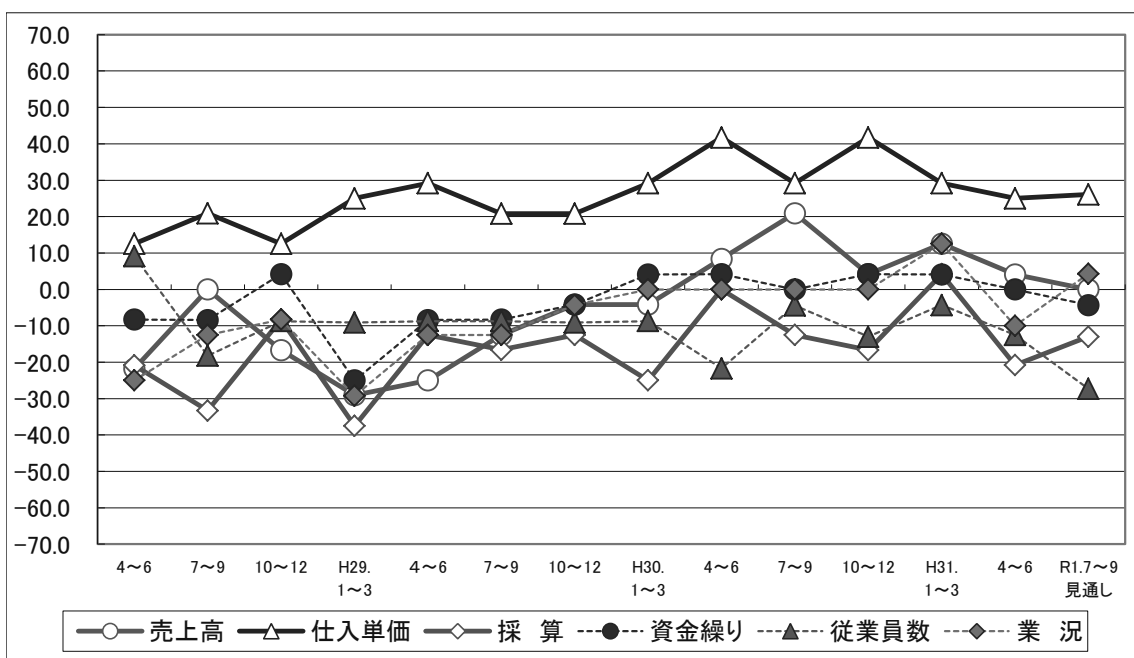
一方、新規設備投資の状況については、計画の8.1%に対し実施が13.2%と順調な投資マインドとなった。また、先行き（R元年7～9月期）については、何らかの投資を予定する企業が18.9%と大幅に増加し、投資マインドの回復が予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「原材料価格の上昇」で最も多く15.8%（1位～3位までに挙げた企業34.2%）を占めた。また、個別の見解としては、「受注増加傾向にあるが、人手が不足している」、「原材料単価上昇傾向にあるが、競合との兼ね合いで、製品価格を据え置くか、下げざるをえない状況である」、「人件費が毎年あがっており、設備投資する余力がない」などの多様な声が見られた。

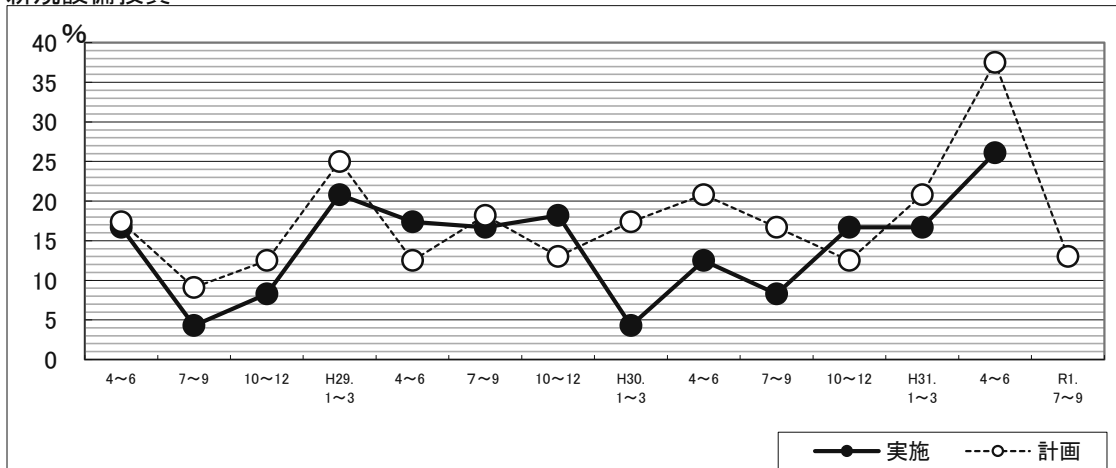
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

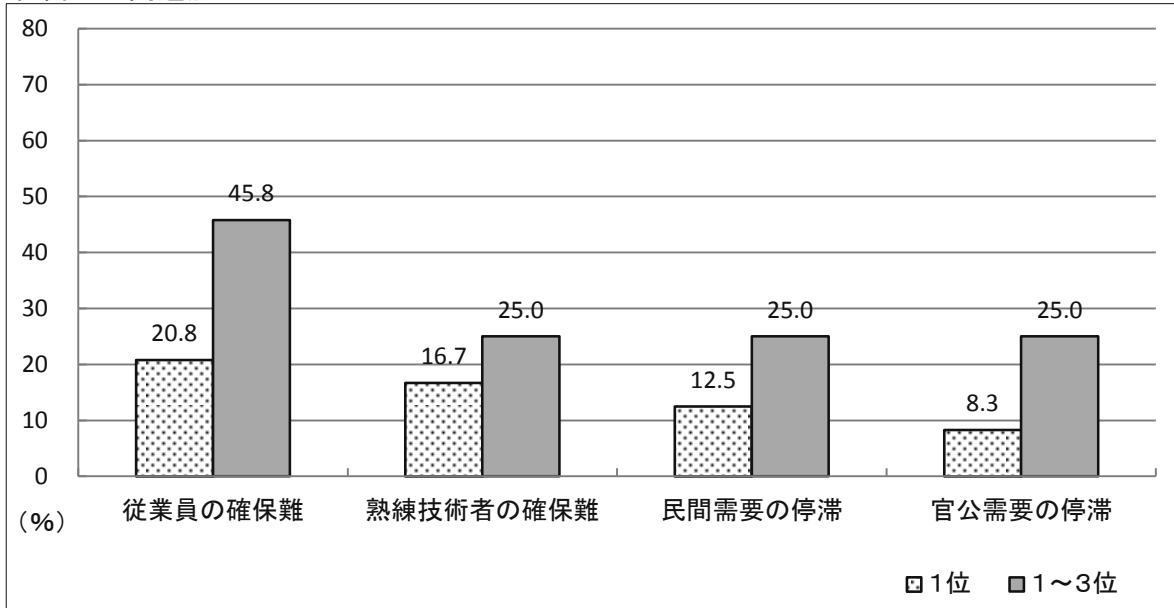
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
4~6	▲ 21.8	12.5	▲ 20.9	▲ 8.3	9.1	▲ 25.0
7~9	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
10~12	▲ 16.7	12.5	▲ 8.3	4.2	▲ 8.7	▲ 8.3
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
7~9	▲ 12.5	20.8	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 12.5
10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4~6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
R1.7~9 見通し	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 公共工事の入札状況によって年間売上が激変し、公共工事のない年は一気に資金繰りが厳しくなる。
- ・ 人手不足は落ち着いてきたように感じるが引き抜き等の話もあり、予断を許さない状況である。

建設業の景況

福井県内における平成31年度（H31年4-R元年7月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で992億39百万円の前年同期比20.6%増、発注件数は同1,256件の同8.1%減となっている。これを主な発注者別でみると、市町村関連工事が5億66百万円の前年同期比3.5%増、県関連工事で5億79百万円の前年同期比19.8%減となっている。一方、住宅投資については、H31年4-R元年6月までの3か月累計で、前年同期比15.2%増の1,294戸であった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比10.8%増の777戸、家賃が同9.1%減の271戸となっている。

こうした中で今回の景況調査をみると、景況感を示すD I値6項目中、仕入単価（逆指数）（前期29.2→今期25.0）で改善した以外、5項目で悪化となった。ちなみに、悪化項目をみると、売上高（前期12.5→今期4.1）、採算（前期4.2→今期▲20.8）、資金繰り（前期4.1→今期0.0）、従業員数（前期▲4.3→今期▲12.5）、業況（前期12.5→今期▲10.0）となっている。この結果を総括すれば、これまで堅調に推移した建設業にやや陰りが出始めたと言える。また先行き（R元年7-9月期）についても、4項目で悪化予測となっている。

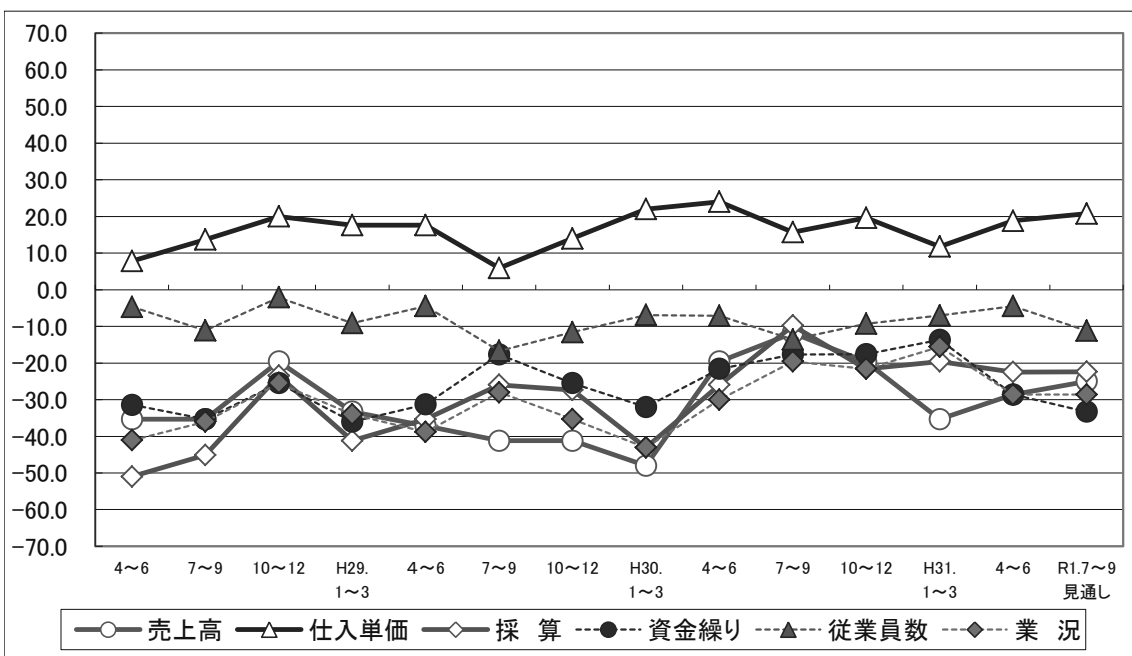
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業37.5%に対し実施した企業が26.1%と実施が計画を下回った。先行き（R元年7-9月期）についても、何らかの設備計画を持つ企業が13.0%にとどまり、投資マインドにやや陰りが見られる。

最後に、経営上の問題点については、「従業員の確保難」が1位に挙げた企業ウエイト20.8%、1位～3位までに挙げた企業45.8%を占め、最多となった。個別の見解としては、「公共工事の入札状況によって年間売上が激変し、公共工事のない年は一気に資金繰りが厳しくなる」、「人手不足は落ち着いてきたように感じるが、引き抜き等の話もあり、予断を許さない状況である」といった悲観的な声が聞かれた。

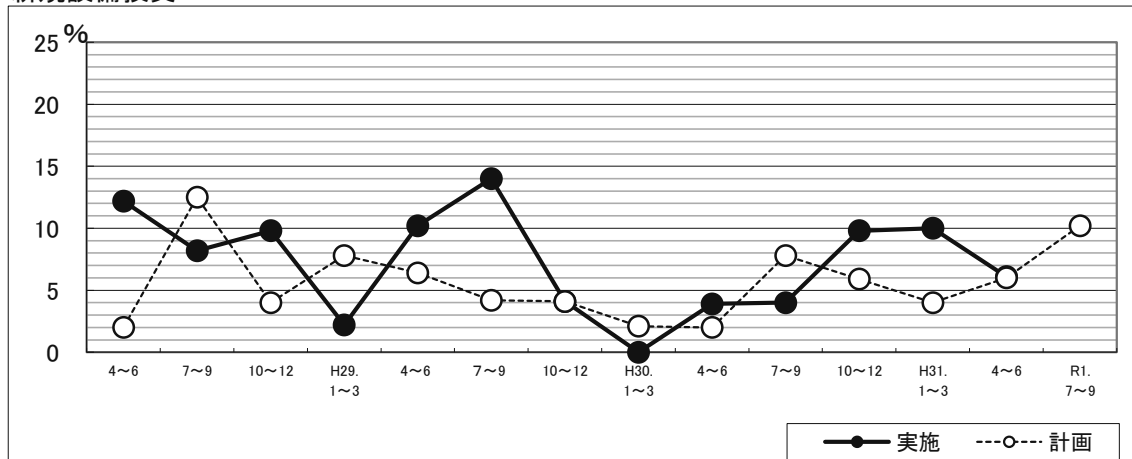
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

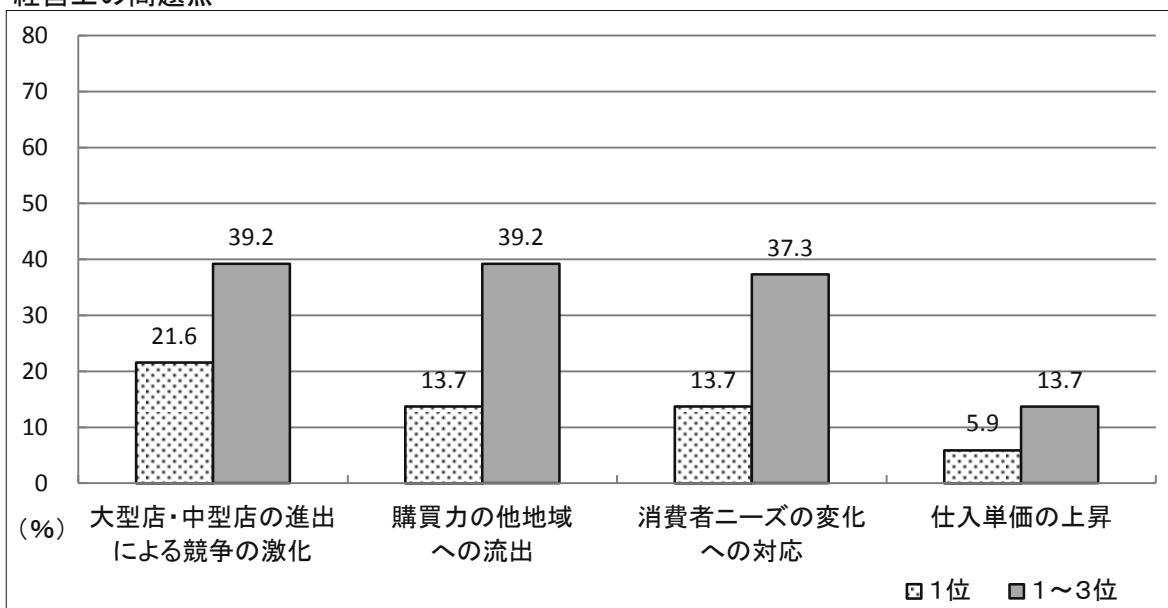
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
4~6	▲ 35.3	7.8	▲ 51.0	▲ 31.4	▲ 4.7	▲ 41.1
7~9	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0
10~12	▲ 19.6	20.0	▲ 23.5	▲ 25.5	▲ 2.1	▲ 25.5
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
7~9	▲ 41.2	5.9	▲ 26.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 28.0
10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4~6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
R1.7~9 見通し	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・インターネット購入が主流となっており、価格で勝てない。
- ・消費税増税の影響と対応に不安がある。
- ・人手不足している。人件費も高騰しており、将来的に不安。
- ・大型ドラッグストアの商圏内出現と固定客の高齢化により売上減少続いている。

小売業の景況

最近の小売業を概観すると、百貨店・スーパー販売に持ち直しの動きがみられるほか、ドラッグストア販売などは堅調を継続、その他コンビニエンスストアも惣菜が堅調、家電販売なども白物家電やテレビなどが堅調であること。さらに、新車販売も復調しつつあることなどから、全体では緩やかに持ち直している。参考までに、近畿経済産業局が公表するR元年6月の大型店売上高（百貨店＋スーパー〔全店ベース〕）をみると、前年同月比2.8%増の63億8百万円となっている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すD I 値6項目中、売上高、従業員数を除く4項目で悪化傾向を示した。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲35.3→今期▲28.6、仕入単価（逆指数）が前期11.8→今期18.8、採算が前期▲19.6→今期▲22.5、資金繰りが前期▲13.7→今期▲28.6、従業員数が前期▲7.0→今期▲4.5、業況が前期▲15.6→今期▲28.6となっている。また先行き（R元年7-9月期）については、3項目で悪化予測となっている。

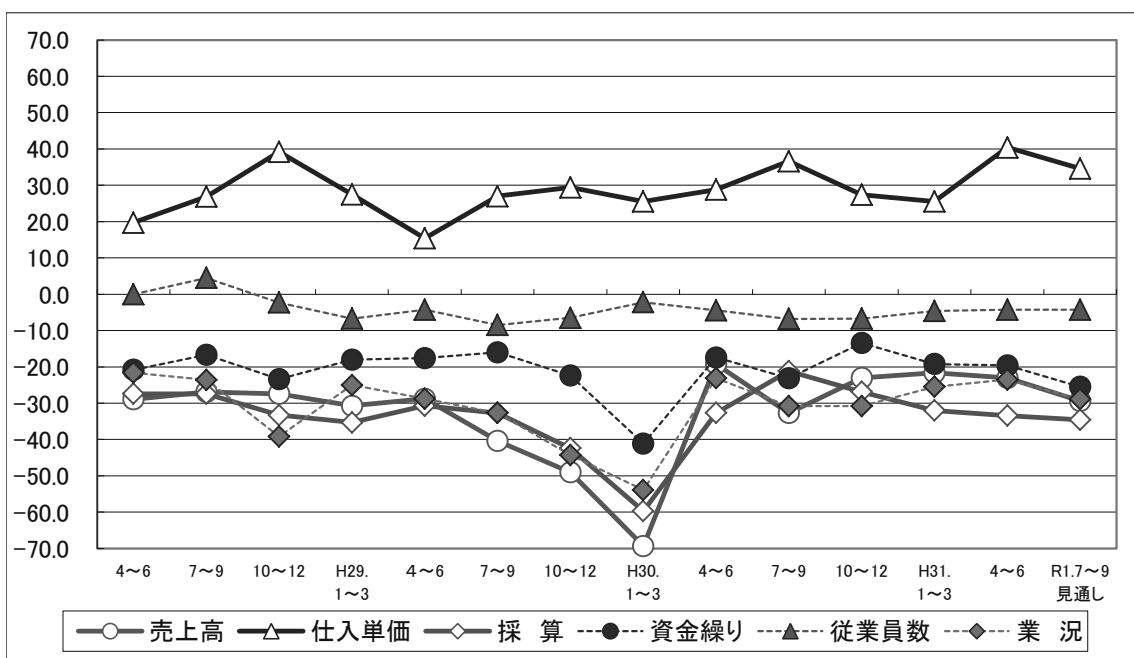
一方、新規設備投資の状況については、今期計画の6.0%に対し実施は6.1%となり、低調ながら横這いで推移。先行き（R元年7-9月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが10.2%となり、やや改善傾向を示した。

最後に、経営上の問題点については「大型店・中型店の進出による競争の激化」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト21.6%、1位～3位までに挙げた企業39.2%となった。次に「購買力の他地域への流出」が続き、1位に挙げた企業ウエイト13.7%、1位～3位までに挙げた企業39.2%となっている。その他、個別の見解として「インターネット購入が主流となっており、価格で勝てない」、「消費税増税の影響と対応に不安がある」、「人手不足している。人件費も高騰しており、将来的に不安」など、悲観的な声が多く聞かれた。

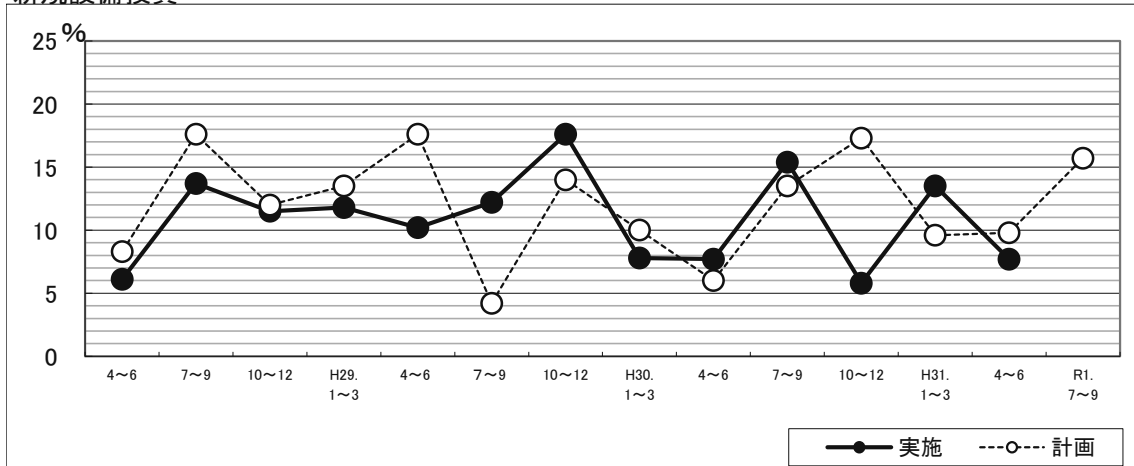
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

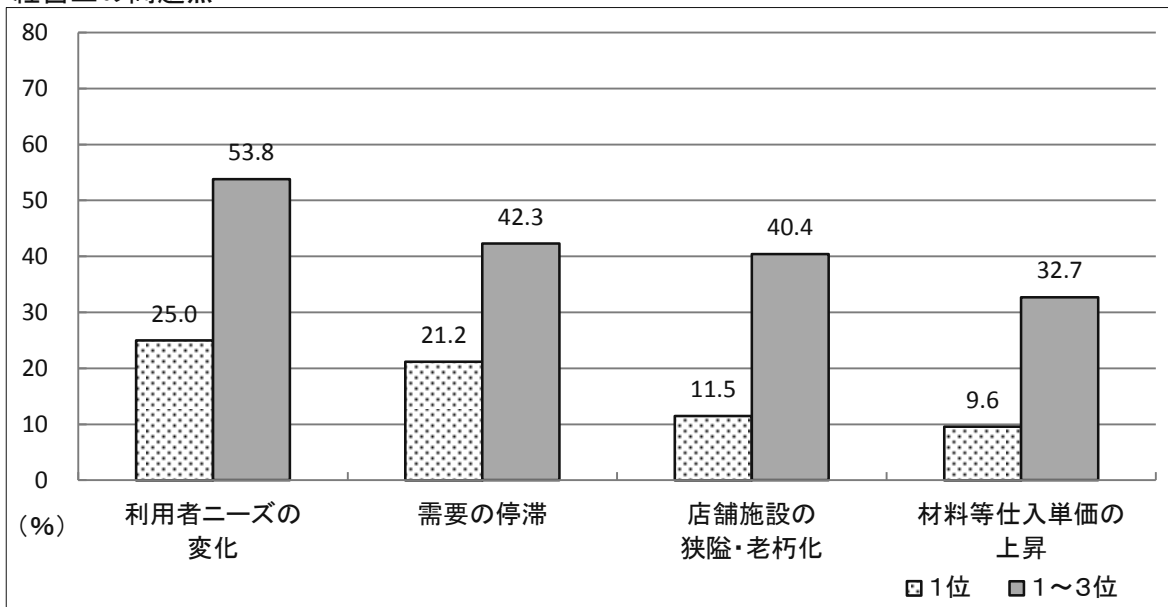
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
4~6	▲ 28.9	19.7	▲ 27.4	▲ 20.8	0.0	▲ 21.6
7~9	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6
10~12	▲ 27.4	39.2	▲ 33.3	▲ 23.4	▲ 2.3	▲ 39.2
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8
7~9	▲ 40.4	27.0	▲ 32.7	▲ 16.0	▲ 8.5	▲ 32.7
10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4~6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
R1.7~9 見通し	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・自身も高齢で、お客様も高齢となっていており、先行きが不安。
- ・業績の良いところと悪いところの差が広がっていく気配がある。
- ・生活物価、材料費が上がっており料金問題を考えないといけない。

サービス業の景況






総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国における元年5月サービス関連産業売上高は30.7兆円で前年同月比1.4%増と、31か月連続の増加となった。増加に寄与した主な産業をみると、道路貨物運送などを含む「運輸業、郵便業」で、前年同月に比べ3.7%の増加で、8か月連続の増加。情報サービスなどを含む「情報通信業」も前年同月に比べ2.6%の増加で、2か月連続の増加。不動産賃貸・管理などを含む「不動産業、物品賃貸業」も前年同月に比べ1.8%の増加で、2か月連続の増加となった。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中4項目で悪化、1項目が横這い、改善した項目は1項目にとどまっている。ちなみに、項目別では売上高が前期▲21.6→今期▲23.0、仕入単価（逆指数）が前期25.5→今期40.4、採算が前期▲32.0→今期▲33.4、資金繰りが前期▲19.2→今期▲19.6、従業員数が前期▲4.6→今期▲4.3、業況が前期▲25.5→今期▲23.5となっている。こうした状況から、県内のサービス業では、全国と比べやや厳しい状況が続いていることがうかがえる。また、先行き（R元年7-9月期）についても、4項目で悪化予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画9.8%に対し実施が7.7%と、やや低調となった。ただ先行き（R元年7-9月期）については計画値で15.7%と2桁のウェイトを占めており、やや期待感が持てる結果となった。

最後に、経営上の問題点については「利用者ニーズの変化（1位に挙げた企業ウェイト25.0%、1位～3位までに挙げた企業53.8%）への指摘が最も多い。また、個別の見解としては「自身も高齢で、お客様も高齢となっていており、先行きが不安」、「業績の良いところと悪いところの差が広がっていく気配がある」、「生活物価、材料費が上がっており料金問題を考えないといけない」などの厳しい声が聞かれた。

全国・福井景気動向 平成31年4月～6月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 16.5	39.5	▲ 21.4	▲ 12.2	▲ 3.9	▲ 17.3
	製造業						
	DI値	▲ 15.3	46.3	▲ 20.4	▲ 10.5	▲ 0.2	▲ 16.8
	建設業						
	DI値	▲ 4.5	47.4	▲ 8.2	0.4	▲ 5.2	▲ 1.1
	小売業						
	DI値	▲ 29.8	31.5	▲ 31.6	▲ 20.5	▲ 5.0	▲ 29.2
	サービス業						
DI値	▲ 12.8	38.5	▲ 19.8	▲ 12.0	▲ 4.5	▲ 15.5	
福井	全体						
	DI値	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
	製造業						
	DI値	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
	建設業						
	DI値	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
	小売業						
	DI値	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
サービス業							
DI値	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

